



様式第 8 号（第 1 2 条関係）

和光市協働事業完了報告書

平成 27 年 3 月 3 1 日

和光市長 様

団体名 NPO 法人 和光・緑と湧き水の会

所在地 和光市諏訪原団地 1-10-508

代表者名 代表理事 高橋 絹世

平成 26 年 4 月 1 日付けで契約を締結した協働事業が完了しましたので、和光市協働事業提案制度実施要綱第 1 2 条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 協働事業の成果

事業名	和光市湧水環境調査
事業費総額	499,500 円
事業期間	平成 26 年 4 月 1 日から 平成 27 年 3 月 31 日まで
実施場所	和光市内
参加者数	延べ 300 名
事業実施内容及びその成果	★ 湧水緑地の現況調査では、市内全域 40 ヶ所を調査し記録に残すことができた。15 年前の調査と比較し、かなり現存し一部はふれあいの森の設置に繋がった。しかし開発により消滅し貴重植物が失われた個所もあり、開発においては事前調査が重要である。 ★ 河川の流入水調査では、越戸川、白子川を歩いて行った結果、かなりの箇所水質がよく湧水の流入であることがわかった。これらの流入水の災害時の利用や貯水としての活用が望まれる。 ★ 代表的湧水緑地としての白子湧水群の詳細調査では、四季の植物変化や湧水量の安定性を知り、和光の特徴としての保全が急務である。2012 年の大坂ふれあいの森の樹木調査と前回を比較すると植生が維持され良好な保全がなされている事が解った。また白子地区の明治初期からの土地利用の変遷がわかり緑地の歴史を知ることができる。 ★ 井戸の現況調査では、環境課と協力し市内 104 ヶ所の現況を把握できた。常時使用されている農家が多く、災害時の水供給源としての利用が期待される。 以上湧水や河川への流入水、井戸の現況調査から、身近な自然の豊かさを体感し、災害時の飲用水と共に生活用水を確保する施策、防災・減災に役立つ知見が得られ、水環境について行政とこれらの知見を共有することができた。

2 添付書類

- ・ 和光市協働事業収支決算書（様式第 9 号）
- ・ 協働事業の実施に要した費用の出納簿等の写し
- ・ その他市長が必要と認める書類

和光市協働事業収支決算書

団体名	NPO法人和光・緑と湧き水の会
-----	-----------------

(収入)

区 分	決算額(円)	説 明
委託料	499,500	市からの委託料
負担金	8,056	NPO法人和光・緑と湧き水の会負担分
合 計	507,556円	

(支出)

区 分	決算額(円)	内 訳
調査費	39,020	湧水・井・地下水等現況把握調査
調査費	42,029	エデル地区継続調査
調査資料収集・記録	46,831	SDカード、USBメモリー、インク、用紙、地図
水質検査	24,409	水質検査(外注)
調査機材	45,529	COD試薬、PHメーター、テスト等
データの整理	37,547	整理、解析、作図 インク、USBメモリー
謝礼	10,000	講師、アドバイザー
交通費	12,037	講師交通費、資料運搬費
事務費	16,955	調査員連絡、通信費、保険
フォーラム	38,398	チラシ、ポスター、用紙、インク、トナー、除菌剤
報告書作成・ 一般管理	181,084	BD-R インク、用紙、トナー、レール、リール
	13719	製作作業時の人件費等
合 計	507,556円	
(うち対象外経費)		